

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 9月 20日

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 氏名 (フリガナ) | 尾崎有里子(オザキユリコ) |
| 研修先機関名 | Hawaii Tokai International College |
| 研修期間 | 2017年8月14日(月)～ 8月19日(土) |
| 大学名 | 東京女子医科大学 |
| 学年 | 5年 |

まずはじめにこのような貴重なプログラムへの参加助成を賜わりましてどうもありがとうございました。ハワイ大学の学生やお世話になりました先生方、コーディネーターの皆様、この留学を薦めてくださった先生方、先輩方に心より感謝申し上げます。

短い期間でしたが、朝から夜まで充実しているプログラムでした。参加を決めたきっかけは、大学の選択実習の一環でアメリカの大学で二ヶ月臨床留学をすることが決まったことでした。留学先ではアメリカの医学生と同じようにチームに入って臨床実習をすることになり、history takingやcase presentationをすることが求められます。このプログラムでそのスキルを磨き、帰国後の勉強にもつなげたいと思い、参加いたしました。その目標はしっかり達成して帰ってくることができたと思っています。それ以上の収穫もたくさんあり、自分と同じ意識をもった仲間と切磋琢磨することができたことは忘れられない経験です。

普段の学習ではinputに偏ってしまうことが多いのですが、outputにも重点が置かれているこのプログラムでは自分の苦手な部分ともしっかり向き合うことができ、今後の課題を見つけることができました。

特に役立ったことは、ハワイ大学のM1-3の学生がボランティアで患者役を演じてくれ、history takingやcase presentationを3日間にわたり練習できたことです。この時間はその日のプログラムの最後にあるため、レクチャーで培ってきたことを実践し、ブラッシュアップすることもできます。学生を問診し、助けを借りながらまとめ、さらに別室に控えている先生方に患者の情報に加え、考えられる鑑別疾患やプランまで含めてプレゼンし、フィードバックをいただきます。これを繰り返すことで少しずつ上達を感じることができました。

参加者はみんな全力で取り組み、楽しんでいたと思います。海外の医学生にここまで細かくチェックしてもらう機会はほとんどないことで貴重な時間でしたし、同じ学生同士すぐに打ち解けて仲良くなることもできました。それにしても、いくら教育システムが違うとはいえ、低学年で問診をし、すらすら鑑別疾患を挙げていく学生たちには圧倒されました。

その他にもmedical ethicsの授業でビデオを見てdiscussionしたり、病院見学、ハワイでご活躍されていらっしゃる先生方の今までのキャリアや今後の進路についてのお話を伺う時間もあります。幅広い分野に関してアドバイスをいただくことができました。プログラム外でも時間を作ってお話をしてくださる先生や学生の存在のおかげで、自由時間も自分たち次第でアレンジすることができ、有意義な滞在となりました。

参加者は25名ほどと多かったです。教室での授業は3つのクラスに分かれ少人数に対して教えてくださるので、積極的に発言する機会も多いです。帰国子女、臨床留学を控えている人も多くおり、みんなの英語のレベルは高く、それぞれの参加者のこれまでの活動もユニークで興味深いものでした。

今回学んだこと、このプログラムを通じて出会うことができた先生方や友達は今後の人生においても宝物になると思います。ハワイでの素敵な夏の一週間をどうもありがとうございました。